

医薬分業の本質を追求し、 調剤薬局業界の未来を切り開く

保険薬局経営者連合会



一般社団法人保険薬局経営者連合会 会長
山村 真一先生

一般社団法人保険薬局経営者連合会（薬経連）は、中小薬局の経営者の会として2011年2月に発足した。現在、70社200薬局が加盟している。

業界団体といえば既得権益の維持拡大を訴えるイメージが強い中、薬経連は保険薬局業の健全な発展と保全を目的に、患者・国の双方に薬局業界が貢献していくことを目指している。

その活動の柱は2本。1本は、医薬分業体制の本質を考え直し薬局を医療の窓口とする「川上戦略」。もう1本が中小薬局を経営的にサポートしていくこと。

急速に進む医薬分業体制の本質を見極めることで、中小薬局の存在意義がクローズアップされていく。薬経連が今後目指すべき方向を、同会会長・山村真一氏に伺った。

インフラとしての 薬局の存在意義

——薬局業界が今後どう生き残っていくかを決めるものは利益の問題だけではないとお考えですね。

山村 今般の大震災ではっきりしたことがあります。それは、いままでの価値観をそのままに日本人が生きていくのは、どう考えても無理だということです。そして実際にそのような流れも芽生え始めているのではないのでしょうか。例えば復興の為であれば消費税が上がってもしかたないと国民が考えるようになった現在、本当に納得できる支出であれば国民は少々の痛みは厭わなくなってきました。しかしそれは納得できない無駄を徹底的に排除する事が大前提の話です。では私たちが属している医療の世界はどうでしょうか。是正できる余地はないのでしょうか。

水道やガス、電気と同じく、医療

は重要なインフラの一つです。国民は「よりよい医療を」と常に考えており、実際に国民の負担で運営されている以上、彼らが求めている期待値以下のサービスや、無駄だと思われる事は許されない業種であります。しかし現状はどうかと問われると、サービス提供のレベルや問題意識もまだまだ十分ではないと言わざるを得ません。だからこそ、特に税産業である保険薬局業界は国民と国家のニーズに即した変容を急がなくてはならないという考えが今回の薬経連発足の根底にあります。

——インフラである薬局のとりべき姿勢とはどのようなもののでしょうか。

山村 インフラを業として任されているプレイヤーたちは、顧客サービスという大変厳しく誇りある責務を黙々と遂行しなくてはなりません。例えば電気・ガス・水道は24時間365日、インフラサービスを国民のために供給

できる体制をごく普通に維持管理しています。国民からすれば、それは当り前の事と捉えており、緊急対応にしてもそれは当然な事で、対応が遅れたりすれば強く非難される事になります。今回の東電の事例を思い浮かべれば良くわかると思います。それは強い信頼と信用が大前提にあるからです。だから誰でも簡単にインフラプレイヤーとしては認められません。では薬局はそのプレイヤーとして十分機能しているのでしょうか。残念ながらそうであると堂々と言えるには、まだまだ道程は厳しい現状なのではないのでしょうか。

理解されていない 医薬分業の本質

——医薬分業を本質的に遂行するのに必要なことはなんのでしょうか。

山村 医師の出した処方せんを院外の薬局で調剤して投薬することイ

コール医薬分業だという思い込みが薬局業界の中にもありました。元来医薬分業は医薬品の適正使用だけでなく、医療コストを下げることも重要な目的だった筈です。国の財政が逼迫している今日、パイが限られている財政事情というのなら、何を優先すべきか。

限られた医療財源を有効活用するには、疾病の重篤度による医療保険の重み分けや、医療保険の適応範囲の見直しも有効だと思われます。具体的には軽医療部分の保険適応の見直しや、負担割合の見直しなども検討すべきです。そこで改めて医薬分業の本質論が登場してくる訳です。ちょっとした風邪でも病院に行った方が安いと思われる今の構図はおかしいですから、OTC薬で治る程度の状態で医者に行ったら自己負担額が高くなるように設定して、医療保険を使わずに薬局で済ませられるものは済ますという社会的な合意を作っていく事も、医薬分業の一つであると言えるのです。

軽医療の裁量権を求めていきたい

——薬局の「川上戦略」について教えてください。

山村 簡単に言えば、昔薬局が担っていた役割です。健康や病気に関する事は、病院にかかる前にまず薬局に行く。そして薬局では相談を受

け、薬を販売するなどして薬局で済ませられるものは出来る限り薬局で済ませ、医師の診断が必要かどうかのトリアージを行う。つまり、処方せん調剤は今まで通り医薬品供給の最終ゲートキーパーとして業務を遂行していきませんが、改めて新たに健康と病気のファーストゲートキーパーというポジションを、戦略として確立していくという事です。

——薬局にフィーを支払うメリットも患者に感じてもらえますね。

山村 第一ステージの軽医療まで薬局で担い、簡単な検査程度のチェック機能も受け持つ。薬剤師は自分が担うべき役割分担のラインを把握していて、少しでもそのラインを超えたら医師を紹介するといった医薬分業が本質的に行われる事を目指しています。もう一つの重要な業務が副作用マネジメントです。医療機関で診断と処方が為され、患者さんは病気の事とそれに対応した薬のポジティブイフェクトについては医師から説明を受けて薬局に来るので、薬局が医療提供施設の一端として、また医薬品適正使用の最終ゲートキーパーとして、そのポジションを確立するためには「医薬品のネガティブイフェクトは薬局で！」という医師と国民のコンセンサスを得る事も今後重要になってくるでしょう。また川下業務拡大の一例として英米でのエマージェンシーレスキューがあります。時

間外や夜間、休日等で医師がいない場合、中断が不適切だと薬剤師が判断した医薬品であれば3日分までは投薬出来るというものです。このような裁量拡大は国民からも支持されるのではないのでしょうか。もちろん医師には事後了解を取ります。

中小薬局が互いに向上していくための倫理綱領

——薬経連には、厳しい倫理綱領がありますね。

山村 先般、埼玉県の薬局で調剤過誤が発生し、患者さんが死亡する事件がありました。薬剤師個人の倫理観もさることながら、薬局の企業としての理念や社内の評価基準などに問題はなかったかと考えます。薬経連では倫理綱領を定めています。会員同士が良い意味で互いに切磋琢磨しながら成長していくためには自浄作用が必要です。

——薬経連の今後の展望について教えてください。

山村 保険調剤業は細い木杵の屋台骨ができあがったばかりのまだ若い業界です。経営者団体として、協働して問題解決に当たっていききたい。個人では情報が薄く、経営改善も簡単ではありません。ワンストップが可能な大手チェーン店とのサービスの差をなくし、どうプラスアルファの魅力をつけていくか。その高いハードルを超え、業界全体のレベルを上げるために組織でやっていくことが薬経連の存在意義です。

これからも常に国家・国民の視点に立ち、社会から必要とされるプレイヤーとなるために、清々しい組織力を構築し発信する力をつけていきたいと考えています。

薬経連フォーラム2011

【開会 13:00】

1. 開会の辞
2. 代表挨拶 会長 山村 真一

*****講演の部*****

3. 「薬経連プロジェクト報告」
小黒 佳代子 保険薬局経営者連合会
4. 特別講演 I 「アッシュビルプロジェクトの今!」
古川 綾 アイ・エム・エス・ジャパン (IMS ジャパン)
5. 特別講演 II 「薬局経営へのバランス・スコアカード導入の試み」
白神 誠 日本大学薬学部 教授

*****戦略の部*****

6. 「はかる!で薬局機能を強化する提案」
吉田 卓史 シスメックス株式会社

*****講演の部*****

7. ～薬局の川上化、町の保健室を目指して～
志賀 大 ケアプロ株式会社
8. 医療クラウドから川上戦略へ
～Data Driven Pharmacyの提案
田代 健 保険薬局経営者連合会
9. 開会の辞

平成23年11月27日(日)
会場: グランドプリンスホテル新高輪